

## 令和4年度林木育種成果発表会を開催しました

令和5年3月22日

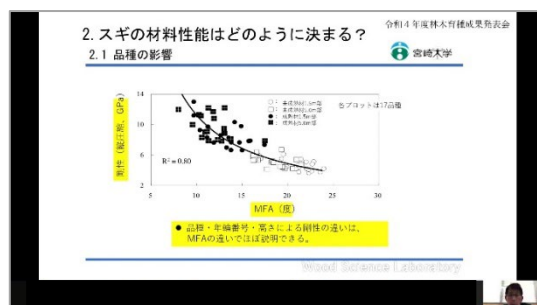
令和5年2月8日（水）、令和4年度林木育種成果発表会を開催しましたので、その概要をご紹介します。

今年度は全国から多くの方にご参加いただけるようオンラインでの開催とし、国、都道府県、民間企業や研究所等から、約270名の方の申込みがありました。

当日は、宮崎大学農学部森林緑地環境科学科の雫子谷佳男教授から、「これからの木材生産と林木育種への期待」と題した特別講演、また、山形県森林研究研修センター研究企画部の渡部公一部長から、「雪国山形の林木育種の取組」と題した特別報告をそれぞれいただきました。



宮崎大学 雫子谷教授



雫子谷教授のスライド



山形県森林研究研修センター 渡部部長



渡部部長のスライド

また、林木育種センター・森林バイオ研究センター・育種場の研究者から以下の発表を行いました。

### ○令和4年度の品種開発

育種部 育種第一課 育種調査役 山野邊 太郎

### ○育種の効率化・高速化に向けた針葉樹4種のゲノム基盤の構築

育種部 育種第一課 基盤技術研究室長 平尾 知士

### ○育種サイクルの短縮に向けたトドマツの早期選抜戦略の構築

北海道育種場 育種課 育種研究室長 花岡 創

○東北地方における早生樹の増殖技術の高度化と実用化への取組

東北育種場 育種課 育種研究室 主任研究員 矢野 慶介

○薬用樹木・早生樹候補としてのキハダの収集・評価

遺伝資源部 探索収集課 分類同定研究室 主任研究員 稲永 路子

○アカシアハイブリッドクローン品種創出の実証試験

ー王子グリーンリソース株式会社との10年間の取組ー

指導普及・海外協力部 西表熱帯林育種技術園長 千吉良 治

○薬用樹木カギカズラの栽培・生産・利用に向けた技術開発

森林バイオ研究センター 森林バイオ研究室長 小長谷 賢一

特別講演の雉子谷教授からは、低炭素社会を目指して木材利用を拡大していく中で、より高いレベルの材料性能をもつ構造用材の生産が林業に求められることから、林木育種は成長の早さを基本としつつ、今後は材質育種の重要性が増してくること、そのため、さらに材料性能にも優れた造林木の育種に期待したいとお話がありました。

特別報告の渡部部長からは、積雪が多い山形県では、スギの雪害抵抗性育種に力を入れてきたこと、近年では、少花粉スギ、無花粉スギ、特定母樹などの新たなニーズに対応するための取組についてご紹介いただきました。

また、当センター研究者の発表概要は次のとおりです。

山野邊育種調査役から、令和4年度の品種開発について説明し、今年度は36の品種を開発したこと、そのうち、複数の研究機関と共同で無花粉スギ6品種を開発したことを発表しました。

平尾基盤技術研究室長から、カーボンニュートラルの実現に向けて、炭素貯留能力に優れたスギや早生樹種等を早期に選抜

できるようにするための技術開発等に必要なゲノム情報について、他機関と共同で4樹種のゲノムの解読に成功したことについて発表しました。

令和4年度に開発した品種		
花粉症対策品種等		6
東北育種基本区	無花粉スギ	3
関東育種基本区	無花粉スギ	3
マツノサイセンチュウ抵抗性品種		25
東北育種基本区	クロマツ・アカマツ	8
関東育種基本区	クロマツ	3
関西育種基本区	アカマツ	7
九州育種基本区	クロマツ	7
初期成長に優れた第二世代品種		5
関東育種基本区	スギ	5

山野邊育種調査役の発表

花岡育種研究室長から、従来、トドマツの次世代精英樹の選抜は30～40年次の調査結果を基に行われているが、今回、これを15年次程度まで縮めることが可能となったことについて紹介しました。

矢野主任研究員から、東北地方に適した早生樹候補であるオノエヤナギとユリノキについて、優良個体の選抜やクローン増殖に関する成果の紹介を行いました。

稲永主任研究員から、薬用樹であり、早生樹の候補であるキハダについて、林業樹種として植栽するための基礎的な情報を蓄積するため、全国に設置した試験地から得られた環境適応性の評価等について発表を行いました。

千吉良園長から、西表熱帯林育種技術園で開発したアカシア属の効率的な人工交配技術を用いて、優良なクローン品種を創出するための取組を共同研究パートナーと10年間にわたりベトナムで実施してきた概要の紹介を行いました。

小長谷室長から、国内に自生する薬用樹木であるカギカズラの苗木の増産法や栽培・収穫・加工調整法の開発、国産生薬や未利用資源である葉を原料としたお茶の試作等の取組について紹介しました。

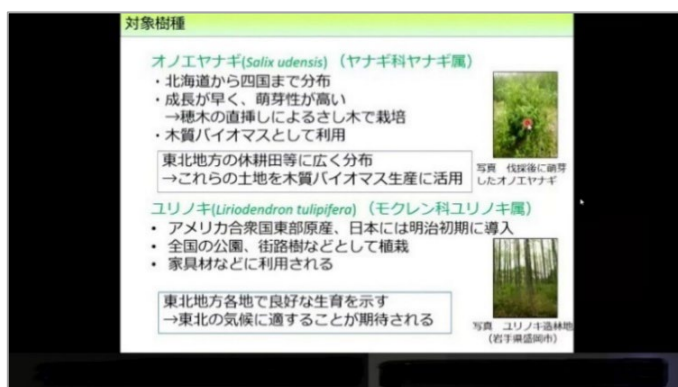
今年度も多くの方々にご参加いただきました。

林業の成長産業化、地球温暖化対策、花粉症発生源対策などについて、林木育種に対する社会的ニーズが益々高まっています。今後も更なる広報活動に努め、より多くの皆様に当センターの研究成果をお届けできるよう取り組んでまいります。

皆様のご参加をお待ちしております。

本成果発表会の様子は「林木育種情報 No. 42 (令和5年3月発行)」でもご紹介いたします。

(企画部 育種企画課)



矢野主任研究員の発表